

年 譜

西暦（元号）	事績	年齢
1903 明 36	12月7日、婦負郡寒江村大字大塚（現在の富山市大塚）に医師瀧口四郎の長男として生まれる。	0
1906 明 39	自分で絵を描くこと。人に絵を描いて貰うこととの楽しみを覚える。	3
1915 大 4	父急逝。	12
1921 大 10	富山中学校（現・富山県立富山高等学校）卒業。受験準備の上京。	18
1922 大 11	母急逝。医科進学を断念する。	19
1923 大 12	慶応義塾大学予科に入学。関東大震災後、大学を退学。	20
1925 大 14	慶応義塾大学文学部に再入学。	22
1926 大 15	友人、永井龍男すすめで同人誌『山繭』に参加。西脇順三郎に、卒業まで五年間師事する。	23
1927 昭 2	西脇教授を中心に詩集『馥郁タル火夫ヨ』を発刊。	24
1931 昭 6	慶応義塾大学文学部を卒業。	28
1932 昭 7	PCL（写真科学研究所）入社。スクリプターとして働く。	29
1934 昭 9	シュルレアリスムに関心を示し、今井滋らが結成した「新造型美術協会」の会合、機関紙などに協力する。	31
1935 昭 10	「新造型美術協会」会員の鈴木綾子と結婚。	32
1936 昭 11	PCLを退社。「アヴァンギャルド芸術家クラブ」を組織する。	33
1941 昭 16	特高に検挙される。（約八カ月抑留される。）	38
1945 昭 20	東京大空襲で高円寺の家全焼。妻綾子の実家のある金沢市に疎開。	42
1947 昭 22	画壇の動きようやく活発となり、「日本アヴァンギャルド美術家クラブ」の結成に参加。	43
1950 昭 25	読売新聞の依頼で美術時評を執筆。	47
1951 昭 26	造形作家と作曲家たちの自発的な交友グループにより「実験工房」発足。	48
1958 昭 33	ヴェニス・ビエンナーレ国際展の日本代表および審査員として渡欧。ダリ、マルセル・デュシャン夫妻、アンドレ・ブルトンなどと出会う。	55
1959 昭 34	ジャーナリスティックな評論を書くことに障害を覚えはじめる。	56
1960 昭 35	初めての個展「私の画帖から」を開く。	57
1966 昭 41	個展のため来日したジョアン・ミロと初めて出会い、交流を深める。	63
1967 昭 42	『瀧口修造の詩的実験 1927～1937』を刊行。事実上の処女詩集となる。	64
1969 昭 44	脳血栓で倒れて入院。雑誌『本の手帖』の特集号にと依頼を受けて、「自筆年譜」を書き下ろす。	66
1970 昭 45	ミロとの詩画集『手づくり諺』刊行。胃の切除手術のため入院。	67
1973 昭 48	フィラデルフィア美術館のマルセル・デュシャン展の開会式に出席のため渡米。	70
1975 昭 50	アントニオ・タピエスとの詩画集『物質のまなざし』刊行。	72
1977 昭 52	富山県立美術館設立について県側の来訪をうける。「美術館計画についての告白的メモ」を記す。	74
1978 昭 53	ジョアン・ミロとの詩画集『ミロの星と共に』（平凡社）刊行。	75
1979 昭 54	心筋梗塞のため、横浜市内の病院にて逝去。	76
1981 昭 56	富山県立近代美術館開館。	

参考資料：『コレクション瀧口修造 1』（みすず書房 1991）

：『時代の共鳴者 辻井喬・瀧口修造と20世紀美術』（富山県立近代美術館 2015）